

1 令和3年度 事業報告

新型コロナウイルス感染症の世界的なパンデミックも2年以上に及び、未だその収束が見通せない状況です。社会活動や経済活動の制約が長期化するなか、海外における紛争や円安の影響も加わり、日本の社会、経済は非常に厳しい状況におかれています。また、外出の機会や人との交流が制限される状況も長引く中で、地域住民どうしのつながりが弱くなり、孤独や孤立、虐待といった課題も深刻化しています。

この間、全国一斉に実施された生活福祉資金の特例貸付は受付期間の延長が繰り返され、3月末までに寄せられた長田区における相談件数は約19,000件、貸付金額は約44億円（約9,200件）に達していますが、なお、貸し付けの相談に来られる方はあとを絶ちません。一方で、感染対策に工夫を凝らしながら懸命に活動される地域の方々や、責任をもって福祉サービスを提供されるさまざまな事業所の皆さまは、さまざまな生活課題に直面する区民への支援を途切れることなく続けてこられました。また、社会福祉協議会が運営する児童館や学童保育コーナーでは、職員が感染リスクに日々直面しながらも、子どもたちの安心と安全な居場所であることを第一の目標に掲げて運営してきました。

本会では、令和3年度の事業方針に基づいて、「地域福祉活動の再スタート」や「さまざまな居場所や地域福祉活動」へできる限りの支援を行い、「寄付を活かした地域支援」では、必要な時に柔軟に助成できる仕組みや、地域福祉活動を応援する新たな助成を整えました。生活に困窮する世帯や複合化した課題を抱える世帯など、社会的に孤立している世帯に寄り添いながら相談支援を行いました。また、児童館を拠点として、「子どもの健全育成と子育て家庭」への支援を行うとともに、「外国文化を認め合う地域共生」についても取り組みました。具体的には、外国にルーツを持つ子どもと親への翻訳と通訳の支援や、親を対象とした日本語教室の試行的な実施です。「ボランティア活動の推進」では、スマホミニ講座などコロナのもとでのつながりづくりの取り組みを行い、グループ結成を果たすことができました。

今後は経済活動や人びとの生活様式が変化していきますが、その変化を柔軟に受け入れ、社会福祉協議会として果たすべき使命と役割を再確認しながら、「“こうべ”の社会福祉協議会 地域福祉推進計画 2025」に基づき、「広げる理解」「広がる参加」「お互いさまの地域づくり」を進めていきます。

目指す方向性（事業方針）

SDGs

1. 福祉の“魅力”を発信し、思いやりの心を育みます
2. 困りごとを抱える人に寄り添い、その人らしい暮らしの実現を応援します
3. さまざまな人が集まり、支え合いにつながる「話し合う場」をつくります
4. 地域で支え合う活動が根付くように支援します（新たなつながりの再構築）

《参考 令和3年度》取り組みの重点事項

1. 地域福祉活動の再スタートの支援

- ◆ コロナ禍での地域福祉活動を啓発していく。
- ◆ 住民主体の地域福祉活動が継続するための支援を行う。
- ◆ 民生委員との連携と、地域支え合い推進員との協働を進める。
- ◆ ふれあいのまちづくり協議会との協働を進める。

2. さまざまな居場所や地域福祉活動への支援

- ◆ 地域資源を把握・分析し、つどいの場などの活動を充実させる。
- ◆ 高齢者の居場所、障がい者の居場所、子どもの居場所を広げる。
- ◆ 住民主体の生活支援活動の立上げと継続のための支援を行う。
- ◆ SNSを活用した地域関係者との情報共有を進める。

3. 様々な課題を抱えた人の自立に向けた支援

- ◆ 悩みを抱える区民からの相談に寄り添い、適切な相談支援を行う。
- ◆ 暮らし支援窓口や保健センターなど、区役所の各部署や他機関の専門職との連携を進める。

4. 地域福祉ネットワーク事業の推進

- ◆ 福祉サービスの種別にかかわらず「総合相談窓口」の役割を担う。
- ◆ 区社協の各ワーカースの総合力で課題解決に取り組む。
- ◆ 地域の「困りごと」についての地域向けの講習会を実施する。
- ◆ ひきこもり世帯の支援や当事者や家族が安心して集える場を作る。

5. 子どもの健全育成と子育て家庭への支援

- ◆ 児童館での健全育成事業を通して、子どもの生活の安定と保護者への子育て支援を推進する。
- ◆ 地域との連携をさらに密にししながら、児童館や学童保育コーナーが安定した運営ができるよう支援を行う。

6. ボランティア活動の推進

- ◆ スマホミニ講座など、コロナのもとでのつながりを広げる。
- ◆ ニーズの把握を進め、対応するボランティアや地域人材を育成する。
- ◆ 災害時に迅速に役割を果たせるよう、普段からの準備を整える。

7. 寄付を活かした地域支援の推進

- ◆ 善意銀行や基金の新たな助成により、地域の福祉活動を支援する。
- ◆ 機材貸出事業を区内障がいサービス事業所との協働で進める。

8. 外国文化を認め合う地域共生の推進

- ◆ 児童館を軸として、外国にルーツを持つ子どもと親を支援する。
- ◆ 地域とともに「お弁当づくり交流会」などを実施し、お互いの文化を認め合う意識を高める。

共通の視点

【地域福祉の現状と推進に向けた取り組みを見せる】

● 地域共生社会の実現に向けて、ホームページやSNSなどを活用し、効果的な広報を行う

【コミュニティソーシャルワークの実践】

● 業務の連携を進め、各職員力を結集し、社協の総合力を発揮する

● 今までの取り組みを基礎にコミュニティワークを充実・発展させる

【経営組織としてのガバナンスの強化】

● 人材育成（専門的技術・マネジメント能力・政策提案能力など）を進める

● 組織全体の方向性（ビジョン）を明確化し、役職員の共通理解を進める

拡げる理解 拡がる参加 お互いさまの地域づくり



芝田カナエ・和江基金を活用



共同募金配分金の一部を活用

中止

新型コロナウイルス感染症のため中止した事業

I. 気づき・共感を育む

1. 思いやりの心を育みます

(1) 手話講習会（入門課程）の開催

手話を学びながら、聴覚に障がいのある方への理解を深めるため、長田区聴力言語障害者福祉協会、手話サークル若葉との共催で、全22回の手話講習会入門課程（7月1日～11月16日）を実施しました。（受講者9名、修了者7名）

また、入門課程修了者を対象とした基礎課程（全24回）の開催に協力しました。（受講者8名、修了者8名）

(2) 福祉教育・ボランティア学習の支援

① 福祉教育用具及びイベント資機材の貸出件数

福祉教育・ボランティア学習の推進を図るため、備品の貸し出しを行いました。

《貸出実績》

(件)

	車いす	アイマスク	白杖	点字ブロック	高齢者疑似体験セット	点字器	イベント	計
福祉教育	5	0	4	4	5	1	0	19
ボランティア学習・社員研修	3	0	1	3	4	0	0	11
その他	3	0	0	0	0	0	2	5
計	11	0	5	7	9	1	2	35

② 「認知症学習会」の開催

中止

（小学校の児童に対して認知症の理解を拡げるため、朗読ボランティアやあんしんすこやかセンターと協力し、紙芝居により実施する事業）

2. 支え合う気持ちを後押しします

(1) ボランティアセンターの運営

長田ボランティアセンター・それいけネットワークの運営を通じ、誰でも気軽にボランティア活動に参加できる基盤づくりに努めました。

① ボランティアコーディネート業務

《ボランティア登録状況》 (令和4年3月末)

	登録数
個人ボランティア	185 名
ボランティア団体	238 団体 (17,000 名)

《相談対応状況》 (令和4年3月末)

	件数	備考
ボランティア依頼(ニード)	17 件	うち、個人からの依頼 0件
活動成立(マッチング)	30 件	
ボランティア活動に関する相談	352 件	
その他の相談	3,389 件	「1.17KOBE に灯りを in ながた」関連の相談・連絡多数

② ボランティア保険の受付

《受付状況》

内 容		加入件数	加入者数
兵庫県ボランティア・ 市民活動災害共済	市民活動災害共済	455 件	2, 726 名
	天災危険補償プラン	1 件	7 名
兵庫県ボランティア活動等行事用保険		109 件	10, 629 名
兵庫県移送サービス交通傷害保険		0 件	0 名
福祉サービス総合補償(全社協)		1 件	32 名

③ ボランティア講座の開催

《開催状況》

	講座名(内容)	開催日程	参加者数
1	「コロナ時代のボランティア活動」 講師:栗木 剛さん コロナにより変化した街の様子と障がい者への影響	6月28日	23 名
2	ひとりからできるスマ歩ボランティア講座 スマホを活用した非接触のボランティア活動をするための講座 (全3回)	7月5日 7月13日 7月21日	27 名
3	ひとりからできる“スマ歩ボランティア講座”のお散歩会 散歩しながら、冊子『スマ歩』で紹介しているボランティアアプリを使ってみる	7月27日	7 名
4	なんでもスマホ相談会 スマホを活用した非接触のボランティア活動をするための個別相談会(全4回)	8月4日 8月12日 10月14日 10月21日	11 名
5	夏休み子ども手話講座 夏休み期間中、小学生に「手話」に触れてもらうことで、聴覚障がい者への理解と関心を高める	中止	
6	発揮しよう地域力！ふれあいスマホ講座 (LINE 講座) 非接触のコミュニケーション手段の LINE を活用し、地域や団体の活動を支援する講座(全3回)	8月10日 10月26日 10月29日	33 名
7	「つなげる! “わ”になる!! 力になる!!! 地域ボランティア」 講師:栗木 剛さん コロナ禍でのボランティアのあり方とボランティア課題の見つけ方について	10月11日	21 名

8	ピリカ(ごみ拾い活動を推進するスマホのアプリ)講習会&グループミーティング ピリカを使って「ひとりから」「非接触で」「自分の空いた時間で」ボランティア活動をする機会を提供する。 また、より楽しく活動を継続するため、グループ結成を呼びかけた(全15回)	11月15日 11月22日 11月25日 12月2日 12月6日 12月10日 12月13日 12月15日 1月17日 1月19日 1月20日 2月16日 2月21日 3月16日 3月28日	42名
9	出前スマホ(LINE)講習会 非接触でのコミュニケーションを円滑にし、活発な地域活動につなげるため、LINE講習会を実施(受講者と場所は依頼団体が準備)(全2回)	12月9日 12月23日	9名
10	「マスク時代・スマホ時代のコミュニケーション術」 講師:松尾 やよいさん コロナ時代・マスク時代の聞き方と話し方、メールやLINEメッセージの交換上の注意点等について	3月14日	24名
		計	197名

④ ボランティアルームの運営

区社協事務所内に設置したボランティアルームをボランティアグループの会議や情報交換の場として運営しました。

- ・ボランティアルームを活用した企画
『ピリカ講習会&グループミーティング』(15回)
- ・ボランティアルーム定期利用登録団体 5団体

⑤ 神戸市事業「KOBESINIA元気ポイント」への協力

ポイント事務局が開催する「活動者向け説明会」に協力し、ボランティアコーディネーターが活動の心構えについて講義を行い、高齢者の社会参加の第一歩を応援しました。

《説明会開催状況》 6回(参加者数 19名)

(2) 多様な福祉活動への参加の促進

① テレフォンサポート事業の実施

区民のボランティア活動をサポートしながら、閉じこもりがちな高齢者を対象に電話を通じた傾聴活動により安否確認を進めました。

また、ボランティア連絡会を年間7回開催しました。

《テレフォンサポート 活動状況》 ※毎週火・木の午後に実施

ボランティア数	対象高齢者数	活動日数	通話回数(延べ)
6名	13名	98日	483回



② 高齢者マッサージ奉仕の実施 **中止**

(長田視力障害者福祉協会、ふれあいのまちづくり協議会等の協力を得て実施する事業) 令和3年9月10日(金)に真陽地域福祉センター(真陽ふれあいのまちづくり協議会)で実施予定でしたが、緊急事態宣言発令のため中止しました。

③ 共同募金運動への協力

地域や団体、学校などさまざまな主体が参画する長田区共同募金委員会の運動に協力しました。

《赤い羽根共同募金の実績》

	実績額	備考
一般募金	4,514,110円	10月～12月
期間拡大募金	23,453円	1月～3月
計	4,537,563円	

《歳末たすけあい募金の実績》

	実績額	備考
歳末たすけあい募金	3,321,045円	11月中旬～12月中旬



あかばねちゃん
©兵庫県共同募金会

芝 (3) 芝田カナエ・和江基金を活用した助成と事業の実施

長田の子どもたちの幸せを願う寄付者の希望に沿って、地域で福祉活動を行う団体、施設を支援しました。

《芝田カナエ・和江基金運営委員会の開催》

令和4年2月24日(長田区役所 7階会議室)

《児童福祉事業助成審査委員会の開催》

令和4年度の事業については、応募がなく、開催見送りとなりました。

《助成の実績及び事業の実施》

※下線は助成事業 及び 給付事業

	実施内容	助成額
1	<u>公募事業助成（児童福祉事業助成）</u>	544,000 円
2	<u>地域交流事業助成</u>	申請なし
3	<u>夏休みものづくり教室への助成</u> （区子ども会と神戸野工業高校によるものづくり教室）	申請なし
4	長田区5歳児地域交流事業 24ページ参照	110,000 円
5	長田区児童館合同行事	中止
6	絵本こうかん市場事業 26ページ参照	24,000 円
7	サマーチャレンジ（夏季休暇中の児童館利用者向けプログラムの提供）	195,000 円
8	ママコーチング（オンラインを活用した児童館での乳幼児親子のヨガ教室） 21ページ参照	73,891 円
9	<u>区内児童福祉施設（3施設）への備品購入助成</u>	300,000 円
10	<u>区内児童福祉施設入所児童 就学助成金</u>	休止
11	<u>区内児童福祉施設入所児童 就労助成金</u>	100,000 円
12	<u>赤ちゃんホーム（1施設）に対する物品購入助成</u>	30,000 円
13	交通遺児に対する修学支援	190,000 円
14	はびっとへ本を手に取る習慣づけ～（区内児童館、保育園、子どもの居場所などへ本を贈る）	382,574 円
15	里親制度の啓発協力（家庭養護促進協会の啓発映画会への協力）	中止
16	こどもの居場所運営助成	180,000 円
	計	2,129,465 円

（4）善意銀行による団体などへの支援

区民や企業、団体からの善意（寄付、物品）をお預かりし、寄付者の意向に沿いながら、区内の団体、施設に対して払出を行いました。

《善意銀行運営委員会の開催》

令和4年2月24日（長田区役所 7階会議室）

《金銭 預託状況》

預託金	件数	金額
預託金	25 件	1,769,507 円
利息収入	—	19,200 円
計	25 件	1,788,707 円

《金銭 払出状況》

払出先	件数	金額
障がい者団体	2 件	60,000 円
障がい福祉サービス事業所	2 件	60,000 円
福祉活動団体	1 件	23,320 円
貸出用車いす購入(2台)	1 件	41,100 円
イベント用機材貸出委託費	1 件	185,500 円
計	7 件	369,920 円

《物品 預託・払出状況》

預託		払出
預託者	預託物品	払出先
株式会社マルハン	菓子 10,714個	区内福祉施設

《車いすの貸し出し状況》

67件

《綿菓子機、ポップコーン機等イベント用機材の貸し出し状況》

4件（綿菓子3、餅切り1）



(5) 赤い羽根共同募金配分金による団体などへの支援

配分金を活用して、地域に根付いた地域福祉活動が実施できるよう支援しました。

《赤い羽根共同募金 配分状況》

※令和2年度の募金を財源に配分

	配分団体	配分額
高齢者 福祉活動	長田区老人クラブ連合会 ふれあいのまちづくり協議会	81,500 円
障がい児・者 福祉活動	長田視力障害者福祉協会 長田区聴力言語障害者福祉協会	72,838 円
児童・青少年 福祉活動	神戸市少年団野球リーグ 長田地区委員会 長田区母子福祉たちばな会 小地域子育て支援ネットワーク 20ページ参照	255,456 円
住民全般 福祉活動	長田区民生委員児童委員協議会 長田区保護司会 長田区遺族会 長田区連合婦人会 長田区社会福祉協議会	938,500 円
	計	1,348,294 円



(6) 歳末たすけあい募金配分金による団体などへの支援

配分金を活用して、年末、年始を中心とした地域住民の交流活動を支援しました。

《歳末たすけあい募金 配分状況》

※令和3年度の募金を財源に配分

	配分団体(事業)	配分額
高齢者	高齢者見守り活動支援事業(歳末カレンダーの配布)	605,000 円
	給食サービスグループ(21グループ)	824,014 円
障がい児者	障がい福祉サービス事業所(17ヶ所)	832,141 円
	民間児童発達支援・放課後等デイサービス(3ヶ所)	90,000 円
児童	交通遺児(9人)	45,000 円
	ひとり親家庭等の学習支援、こども食堂実施団体(8団体)	207,267 円
ボランティア ・NPO活動	NPO等による地域福祉活動の実施団体(2団体)	60,000 円
	親子で参画する地域歳末行事実施団体(7団体)	118,000 円
	歳末たすけあい募金活動実施団体(15団体)	272,100 円
	計	3,053,522 円

3. 福祉の“魅力”を発信します

(1) 情報発信の充実

① 区社協ホームページのリニューアル

区内の地域団体が行う福祉活動やボランティア講座など、区社協の事業の情報をタイムリーに発信することで、区内の地域活動や区社協をより多くの方に知っていただくために、ホームページをリニューアルしました。

スマートフォン対応画面の新設、視覚障がい者への音声対応、見る人目線の画面構成（「知りたい」、「参加したい」、「相談したい」、「寄付・募金したい」等、目的別に検索できるなど）に変更しました。

② ホームページ及びSNSを用いた情報発信

給食グループによる配食活動や地域のふれあい喫茶など、コロナ禍での活動取材し、情報を発信しました。

また、助成金情報や区社協の事業についても発信しました。



③ ボランティアセンター情報誌の発行

季刊「それいけ ながた」No.6（令和3年6月） 1,000部

季刊「それいけ ながた」No.7（令和4年3月） 1,000部

4. 日頃から災害への備えを進めます

新型コロナウイルスなどの感染症の拡大は、社会活動や経済活動などあらゆることに制限が課され、市民の生活も自粛を余儀なくされ、まさに災害時と捉えられる状況となっています。市内の他の社会福祉協議会（神戸市社協、区社協）と協定を締結し、このような災害時に、職員派遣や物資の支援など、相互に支援し合える体制を整えました。

また、阪神・淡路大震災で大きく被災した長田区だからこそ得られたさまざまな想いを風化させることなく、防災の視点を持って次世代へ継承していくことが大切です。

(1) 「1.17KOBEに灯りをinながた」実行委員会への協力

灯りをとともす市民参加型の事業として、阪神・淡路大震災の犠牲者への追悼行事を行う実行委員会に協力しました。

《開催状況》

日 時	令和4年1月17日 16:30～20:30
場 所	(主会場)鉄人広場 (副会場)新長田駅前広場
内 容	主会場を新長田駅前広場から鉄人広場に移し、①LED 灯籠とローソクの灯籠を併用した「1.17ながた」の路上文字の作成、②鎮魂和太鼓ライブと中学生の合唱、③学生ボランティアの募金活動、④防災意識の喚起と防災知識を伝えるカードの配付、⑤小中学生が製作したローソクの配付を行いました。

《学生のボランティア参加》

(事前準備)

神戸常盤女子高校10名 (牛乳パック募金箱づくり)

(当日)

兵庫県立大学5名 (東日本支援サークル Bridge)

神戸常盤大学16名

関西国際大学3名

神戸大学2名

神戸常盤女子高校23名

鷹取中学校(合唱)約50名 ※順不同

《震災防災学習会》

小中学校、保育園を対象に、震災と防災に関する学習会を実施しました。

また、同時に追悼行事で使用するローソクづくりとLED灯籠にメッセージを書くワークショップを開催しました。(灯籠メッセージ作成数 約300)

実施校	実施日	学年	参加者数
駒ヶ林中学校	12月15日	1年生	74名
蓮池小学校	12月21日	4年生	62名
長田南小学校	12月22日	6年生	43名
水木小学校	12月13日	4年生	60名
計			239名

※神戸保育園(1月11日)とだいち小学校(1月17日)は震災語り部の会のみ

《竹募金箱づくりワークショップ》

学生ボランティアや地域住民に対し、竹切りと伐採した竹を使った募金箱づくりを体験するワークショップの開催に協力しました。作成した募金箱は、行事当

日に来場者に配布しました。

日 付	令和4年1月8日
場 所	若王山無動寺(北区山田町)
参加者	14名

(2) 宮川防災デイへの参画 **中止**

(例年、宮川小学校と宮川防災福祉コミュニティが合同で実施する総合防災訓練に参画しています)

(3) 長田区災害時の医療・介護提供協議会への参画

災害時に医療と介護事業者が連携して取り組むことができるよう、医師会、歯科医師会、薬剤師会、区内介護事業者などと平時からネットワークを組んでいます。

Ⅱ. くらしに寄り添う

1. 困りごとを受け止め、つなぎます

(1) 地域福祉ネットワーク事業

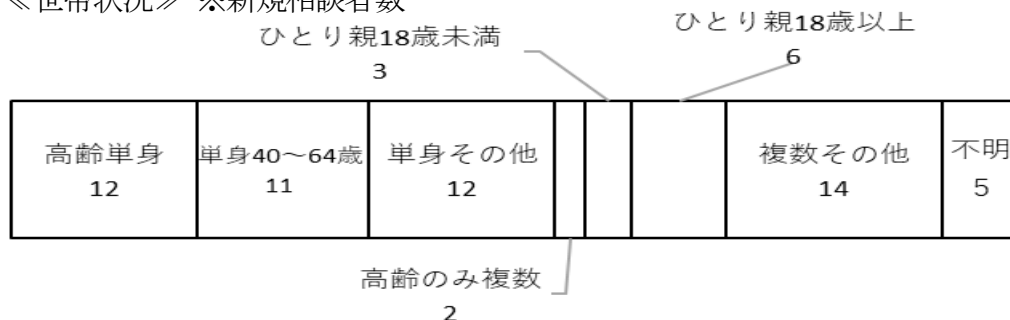
今ある制度や福祉サービスでは解決することが難しい、そのような複合的な福祉課題を抱える世帯に、関係機関や専門職、地域をつなぎ、それぞれの役割で支えていくしくみをつくる取り組みが「地域福祉ネットワーク事業」です。

地域福祉ネットワークカー、生活支援コーディネーター、子育てコーディネーターなど、区社協のワーカーの総合力により、くらしの困りごとや悩みを受け止め、その人に寄り添いながらさまざまな福祉サービスにつなぐサポートを行いました。

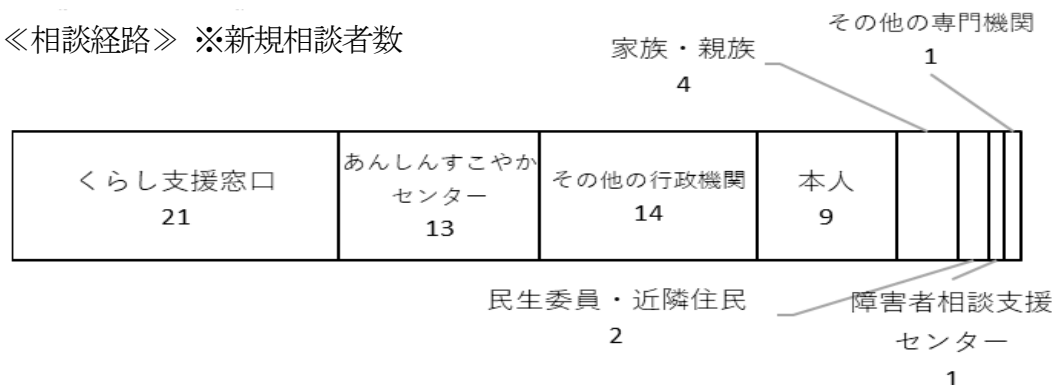
《個別支援ケース数》

新規	65 件	継続	10 件	計	75 件
----	------	----	------	---	------

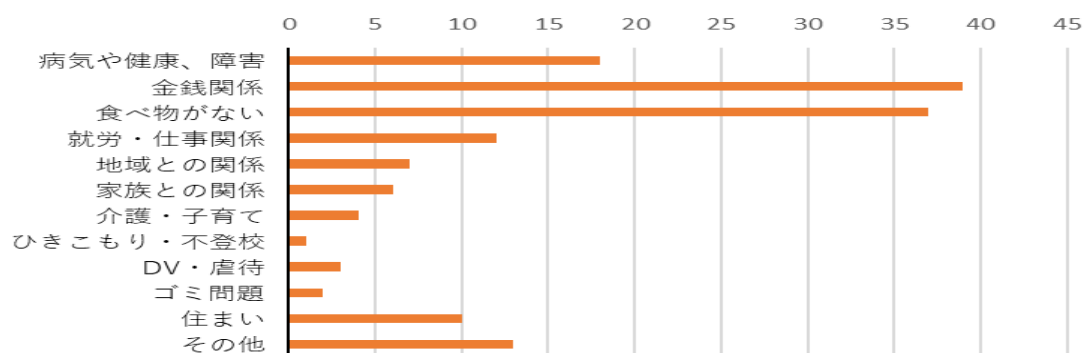
《世帯状況》 ※新規相談者数



《相談経路》 ※新規相談者数



《抱える課題》 ※重複あり



地域福祉ネットワークによる支援の事例

世帯の状況

Rさん（50代・男性）

※認知症状のある父と歩行困難の母（要介護3）の3人世帯。1年前に両親の介護を理由に離職し預貯金と父の年金で生活。預金が尽きた。

支援期間

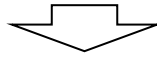
令和3年11月 ～ 現在

相談経路

遠方の親族から世帯と連絡がつかなくなったと社協へ連絡が入る。

抱える課題

- ◆ 本人の困りごとを相談する相手がない
- ◆ 長く就労していない事による意欲の低下
- ◆ 金銭管理が難しい
- ◆ お金がない事で両親の受診、介護サービスにつながらない
- ◆ 認知症の父との生活で精神的に追い詰められている



地域福祉ネットワークの視点

本人との関係構築

自宅を訪問し、安心して受け入れてもらう

関係機関と連携 → 自立した生活を目指す

- ① 区あんしんすこやか係、あんしんすこやかセンターと一緒に実態調査
→ 両親に必要な支援を考える
- ② 本人と一緒に生活保護の相談 → ケースワーカーと金銭管理の課題を検討
- ③ 関係機関と世帯支援会議を開催し、お互いの役割を共有

支援の内容

- ◇ 食べ物がない → 区社協（緊急食糧支援）
- ◇ 雇用保険の手続き → ハローワーク神戸
- ◇ 市住の減免手続き → 住宅管理センター
- ◇ 生活費の相談 → 生活支援課（生活保護）
- ◇ 両親の介護サービス → 区あんしんすこやか係・あんしんすこやかセンター
- ◇ 父に対するDVの疑い → 区あんしんすこやか係
- ◇ 往診可能な医療 → あんしんすこやかセンター

《支援の結果》

- 地域福祉ネットワークが本人に関わることで理解者であると認識し、前向きに物事をとらえ支援を受け入れるようになった。本人がいつでも相談できる窓口として継続して支援。
- 生活保護につながったことで、世帯の生活面での不安はなくなり本人の精神的な安心となり、今後に向けて考えていけるようになった。
- 関係者で集まり情報共有することで、必要な支援につなげることができた。
- 医療、介護サービスにつなげることで、両親も適切な支援を受けることができた。

(2) 生きづらさを抱えた人に居場所や“しごと”の場を提供

何らかの事情で生きづらさを抱える方が集う事の出来る場の支援を目的に、令和3年10月より（居場所、生きがい、役割づくり）当事者支援「ぺだる」の定期開催をしています。区社協内の作業だけでなく、本人の実情を把握しつつボランティア活動の場を提供し、実際に参加していただきました。

日 時	毎週金曜日 10:00～12:00 第3金曜日のみ 13:30～15:30
場 所	長田区役所 4階 ボランティアルームなど
内 容	軽作業(書類の印刷やセット、封入、簡単なパソコン作業等)

(3) 食のセーフティネット事業

生活に困窮する人に対し、区役所（くらし支援窓口など）や他の行政機関、あんしんすこやかセンター、生活福祉資金相談員と連携し、緊急的に食糧支援を行いました。

提供世帯	33世帯
主な理由	・新型コロナウイルス感染拡大状況の影響による困窮 ・貸付入金までのつなぎ支援 ・解雇や失業、就職活動の難航 ・金銭管理が難しいなど ・お金の紛失など

(4) 成年後見制度の利用手続き「長田区相談室」の運営協力

成年後見の制度や利用手続きについて情報提供を行う初期相談窓口を神戸市社協成年後見支援センターとの協働により運営しました。

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、4月～9月は成年後見支援センターでの電話相談に切り替えました。

《実施状況》

開設日	毎月第4金曜日 13:30～15:30 ※10月～3月は対面実施
場 所	長田区役所 4階
相談件数	2件
相談内容 (重複あり)	・制度説明 1件 ・成年後見センターへ相談をつないだ 1件 ・専門機関の紹介 1件 ・死後事務任意契約について説明 1件

2. 自分らしく暮らせるように応援します

(1) 社協運営児童館の管理・運営

区内10館の児童館のうち、神戸市社協が指定管理者となっている7つの児童館と2つの学童保育コーナーについて運営を支援しました。

(2) 区内児童館の運営支援

子育てコーディネーターが、社協運営の児童館、学童保育コーナーとともに、他法人が運営する児童館（コーナー含む）の運営を支援しました。

《区内児童館の状況》

	館・コーナー	年間利用者数 (※1)	平均利用者数 (※2)	放課後児童クラブ 登録児童数 (令和4年3月末)
1 社協 運 営 館	真野児童館	6,351 名	22 名	23 名
	志里池児童館	11,099 名	38 名	38 名
	長楽児童館	14,654 名	50 名	62 名
	片山児童館	9,644 名	33 名	39 名
	池田児童館	21,007 名	72 名	93 名
	長田児童館	9,457 名	32 名	28 名
	御蔵コーナー	9,155 名	31 名	41 名
	細田児童館	14,772 名	51 名	51 名
	蓮池コーナー	10,300 名	35 名	45 名
	小計 1	106,439 名	364 名	420 名
2 他 法 人 運 営 館	五位の池児童館 (運営：神戸新生福祉会)	7,910 名	27 名	37 名
	駒栄児童館 (運営：近田幼稚園)	20,981 名	72 名	99 名
	大日丘児童館 (運営：雲雀ヶ丘福祉会)	9,109 名	32 名	39 名
	丸山コーナー (運営：雲雀ヶ丘福祉会)	2,724 名	9 名	20 名
	小計 2	40,724 名	140 名	195 名
	合計(1+2)	147,163 名	504 名	615 名

※1：定例活動・行事の利用者、自由利用・その他の利用者

※2：令和3年度開館日数 293日

《巡回支援》

児童館巡回 39回

《児童館指導員区内研修会》

	実施日	内容
指導員研修会	7月15日	児童館事業におけるICTの活用について
	8月25日	密にならない子どもとの遊び方や過ごし方
放課後児童支援員研修会	10月22日	行動傾向を知って人間関係のお悩みをへらそう
	11月16日	放課後児童クラブ実践事例研究

(3) 拠点児童館事業への支援〈細田児童館〉

総合児童センターと連携しながら、専門講座の開催や区役所と連携した取り組みを支援しました。

《実施状況》

講座・事業名	実施日	参加者数
赤ちゃんとのふれあい講座(第1回)	9月8日～9月29日	計4回 延べ30名 (4組)
赤ちゃんとのふれあい講座(第2回)	11月24日～12月15日	計4回 延べ48名 (6組)
保育現場で活かす 感覚運動指導者養成講座	6月25日 7月2日	計2回 延べ51名
学習支援事業 「夏休み じどうかんスタディひろば」	7月27日～7月29日 8月3日～8月5日	計6回 延べ69名
学習支援事業 「書道パフォーマンスとお習字体験教室」	8月5日	134名
J-café(じどうかんカフェ)	4月20日～3月18日	計36回 延べ26名
こどものおべんとうひろば	7月29日～3月31日	計16回 延べ5名
子育てシニアサポーター フォローアップ研修	2月16日	5名
あおぞら☆きよてんじどうかん 「なつまつり」 「ハロウィン」 「せつぶんあそび」「はるまつり」	7月16日 10月20日 2月・3月	66名 48名 0名

(4) 児童館を拠点とした地域の子育て支援

① 子育てコミュニティ育成事業

地域ぐるみで子どもたちの健全育成を図るため、児童館を拠点として民生委員、主任児童委員、婦人会、ふれあいのまちづくり協議会などの地域団体やボランティアの協力により開放委員会を設置し、休日に自由開放、行事開放を実施しました。

《実施状況》 ※社協運営の児童館のみ

児童館	自由開放・行事開放		主な行事開放の内容
	実施回数	来館人数	
真野	6回	105名	なつまつり、ハロウィンパーティ、クリスマス会、節分おはなし会、テーブルゲーム大会、春のおはなし会
志里池	3回	82名	映画会(2回)、クリスマス会
長楽	10回	201名	折り紙(3回)、LaQ(玩具遊び)(2回)、知育動画視聴、マフラー編み(2回)、クリスマス会(2回)
片山	7回	136名	ビンゴゲーム、絵本読み聞かせ、工作(2回)、クリスマス会(2回)、昔遊び
池田	1回	66名	子育てフェスタ IKEDA
長田	1回	32名	クリスマス会
細田	中止		
計	28回	622名	

※新型コロナウイルス感染症の感染拡大により当日の中止が多くありました。



② 小地域子育て支援ネットワークの推進と組織化

地域団体や事業者、学校等が、児童館を拠点として情報交換や課題検討を行うことにより、地域の子どもたちの健全育成を目的とした連絡会を開催しました。

《実施状況》

小学校区	児童館	連絡会	イベント
真陽	駒栄児童館	計 1 回	中止
室内・御蔵・水木	長田児童館	計 5 回	計 3 回
蓮池	細田児童館	計 2 回	計 1 回
池田・長田	池田児童館	計 9 回	計 1 回
駒ヶ林	長楽児童館	中止	中止



③ ママコーチング（親子ヨガ）

区内児童館に集う親子を対象に、児童館と講師をオンラインでつなぎ、楽しくヨガにチャレンジし、その後も自宅で継続してリフレッシュできる方法を学ぶことで心と体の健康増進と心の安定を図りました。

（5）生活福祉資金の貸付相談

低所得者や高齢者、障がい者世帯の経済的な自立と生活の安定のため、民生委員・児童委員による相談活動を支援しながら、制度実施主体である兵庫県社会福祉協議会、神戸市社会福祉協議会、区役所くらし支援窓口と連携し、貸付の相談を実施しました。

また、新型コロナウイルス感染症の影響で、離職した世帯や収入が減少した世帯の支援のため、特例貸付の相談窓口を実施し、相談対応を行いました。特例貸付は、令和4年8月末まで期間が延長されており、現在も相談対応を行っています。

《相談対応状況》

資金種類		相談対応件数	貸付決定件数	貸付決定額
総合支援資金		3 件	0 件	0 円
福祉資金	住宅改修費	428 件	0 件	0 円
	福祉用具等の購入		0 件	0 円
	障がい者用自動車		0 件	0 円
	転宅費		0 件	0 円
	一時的に必要な経費(エアコン等)		17 件	1,604,000 円
	緊急小口資金		12 件	3 件
教育支援資金		1,256 件	50 件	41,628,200 円
計		1,699 件	70 件	43,392,200 円

※貸付資金の交付・償還管理は、兵庫県社会福祉協議会で実施

特例貸付	相談対応件数	貸付決定件数	貸付決定額
緊急小口資金	2,649 件	884 件	170,170,000 円
総合支援資金	3,084 件	1,281 件	662,450,000 円
計	5,733 件	2,165 件	832,620,000 円

※貸付資金の交付・償還管理は、兵庫県社会福祉協議会で実施

Ⅲ. つながり、支え合う

1. 支え合い活動につなげるため、話し合う場をつくります

(1) 民生委員・児童委員との連携

① 小地域支え合い連絡会を中核とした地域支え合い活動の展開

あんしんすこやかセンターと連携して、各地区民児協ごと開催し、見守りが困難な事例への対応を各委員と共有するなど、高齢者の見守り活動を支援しました。

《小地域支え合い連絡会 実施状況》

地区民児協	開催回数	出席者数(延べ)
19 地区	延べ 45 回	民生委員: 323名 区社協: 74名 あんしんすこやかセンター: 119名

② 高齢者の訪問調査

長田区民児協の協力を得て、70歳以上の単身高齢者や75歳以上の高齢者のみの世帯に対する訪問調査を行い、高齢者見守り活動の基礎資料として整備しました。

《訪問調査 実施状況》

	70歳以上 単身世帯	75歳以上 高齢者のみ世帯	75歳以上 単身世帯
事前案内対象件数 (A)	327 世帯	221 世帯	—
訪問不要の返信等 (B)	135 世帯	106 世帯	—
訪問調査件数 (A) - (B)	192 世帯	115 世帯	1,306世帯

《訪問調査後の「見守り台帳」作成状況》

	単身高齢世帯	75歳以上 高齢者世帯
「見守り台帳」作成済 ※累計	6,395世帯	1,079世帯

(2) 生活支援活動、生活支援サービスの開発と定着

① 地域ケア会議への参画

あんしんすこやかセンター圏域の高齢者見守りの関係者が集まり、地域課題や支え合い活動の仕組みづくりについて話し合う場に参画しました。

また、区役所あんしんすこやか係と協働して区地域ケア会議に参画し、あんしんすこやかセンター圏域で把握した地域課題について整理し、分析を行いました。

② ひきこもり家族のつどいの場「いろり」の開催

昨年一昨年に実務者会を実施し、まず、当事者を支える家族に寄り添う必要性と、高齢家族にとって参加しやすい居場所や悩みを話すことのできる場の重要性が協議されました。

これを受け、ひきこもりの家族を持つ高齢の家族が集まって悩みを話し、気持ちを共有することで、心が少し楽になるような温かいつどいの場として「ひきこもり家族のつどいの場『いろり』」を開催しました。

《実施状況》

開催	全4回(7月、9月、12月、3月)
会場	長田区役所 6階 多目的室
参加人数	延べ14名

(4) 障がい者の自立と社会参加の促進

① 長田区自立支援協議会への参画

障がいのある人がそれぞれのライフステージに応じた自分らしい生活を実現することを目的として、障がいに関わるさまざまな関係機関や団体、行政と連携して、課題解決のために協議を行っています。



② 障がい福祉サービス事業所紹介ホームページ「さるびあギフト」の運営

区内の障がいサービス事業所の商品や受注作業の広報の促進、また、工賃の向上を目的に、本会ホームページ内に現在、25の事業所の商品や受注作業を紹介するページを開設しています。



③ 一七市拡大版（福祉フェア）への協力 **中止**

(区内の障がい福祉サービス事業所等が中心となり、小学校や企業が連携するイベントに協力しています)

2. 支え合い活動のしくみをつくり出します

(1) ほっとかへんネット長田（長田区社会福祉法人連絡協議会）への参画

区内の社会福祉法人（26法人・34施設）が施設の種別を超えてネットワークを構築し、地域における公益的な取り組みを行うために設立しています。本会も参画し、ホームページ内に取り組みを紹介するページを開設しました。



《実務者会》（加盟法人が3つのチームに分かれて活動の企画実施に取り組みます）

研修チーム (9法人)	(1)分野を超えた研修会の企画・実施 「コロナ禍における困窮者支援」をテーマに全体研修会を実施
課題解決チーム (9法人)	(2)地域の課題解決のための具体的な活動の提案 フードドライブを継続して実施
広報・イベントチーム(8法人)	(3)活動の周知・啓発、及びイベント企画・実施 活動をPRするためのグッズの作成、ホームページからの啓発活動

芝 (2) 長田区5歳児地域交流会の開催支援

保育所（園）と認定こども園が協働し実施する交流会に協力しました。新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を行い、令和3年度は5つの会場に分かれて屋外で実施されました。また、小学校入学に向けた文具記念品の配布は、芝田カナエ・和江基金が活用されました。5歳児作成のメッセージや絵をクリアファイルに貼り、老人クラブ連合会にお渡ししました。

3. 支え合い活動が地域に根付くように応援します

(1) ひとりぐらし高齢者友愛訪問活動の推進

民生委員・児童委員と地域住民ボランティアによる、高齢者の安否確認と孤立を防止するための見守り活動の支援を行いました。

《友愛訪問活動グループ 活動状況》

グループ数	ボランティア数	対象高齢者数	安否確認回数(延べ)
274 グループ	1,216 名	2,192 名	124,759 回

(2) ひとりぐらし高齢者ふれあい給食活動の推進

地域のさまざまな団体の協力を得ながら、高齢者に交流の機会を提供し、ふれあうことによって、孤立の防止を図るふれあい給食活動グループの運営を支援しました。

《ふれあい給食活動グループ 活動状況》

グループ数	参加高齢者数(延べ)	実施回数
※ 30 グループ	7,906 名	255 回

※取りに来ていただく配食活動により実施（再開）した給食会は28グループ

① 『長田もぐブログ』による情報の発信

給食会の情報やボランティアの活動を広く知ってもらうため、本会ホームページに『長田もぐブログ』としてシリーズ化し、情報を発信しました。



ホームページの新着情報で、『長田もぐブログ』を随時、発信しています。是非、ご覧ください！！



② コロナ禍での再開や継続の支援（長田「もぐ」配食プロジェクト第3弾）

新型コロナウイルス感染症の影響を受け、従来の飲食を伴う会食は中止や自粛となりました。会食はできなくても感染予防対策を行いながら高齢者のためのイベントや交流活動等の事業を実施することができるよう、また、コロナ禍での給食会再開の機会となるよう、健康体操やフラワーアレンジメントなどの講師メニューを提案し、講師派遣を行いました。

《プロジェクト 実施状況》

内 容	シン・ハイショク プロジェクト 給食会への足指体操や健康体操、フラワーアレンジメントなどの講師派遣
活用給食会数	8グループ(うち1グループが活動再開に結び付きました)
参加者数	延べ151名

③ 長田区歯科医師会による口腔ケア指導への協力

中止

(区歯科医師会が実施する地域住民への口腔ケア指導の取り組みに協力し、希望する給食活動グループへの派遣を調整)

(3) さまざまな居場所づくり

① コミュニティづくりの活動とつどいの場の支援

あんしんすこやかセンターの地域支え合い推進員と連携しながら、コミュニティづくりや介護予防、また、高齢者が誰でも参加できる「つどいの場」に取り組む地域住民による支え合いグループの支援を行いました。

《講師派遣メニューの提供》

地域活動の活性化や活動の機会となるように、地域の要望に添った講師派遣メニューを提案し、地域団体が実施するつどいの場等での活用を支援しました。

内 容	地域活動グループへの健康体操やフラワーアレンジメント、コミュニケーション術などの講師派遣
グループ数	6グループ
参加者数	延べ78名

《「つどいの場」交流会の実施》

開 催 日	10月13日(水)
会 場	長田区役所 6階 多目的室 ※対面とオンラインのハイブリッド形式で実施
内 容	みんなに伝えたい みんなと語りたい「つどいの場 交流会」 ・活動紹介&PR ・情報交換(コロナ禍で大変だったこと、これからやってみたいこと等) ・事務連絡
参加団体	つどいの場支援事業交付決定団体 5グループ

② 生きづらさを抱えた人に居場所や“しごと”の場の提供 (再掲)

17ページ参照

③ ひきこもり家族のつどいの場「いろり」の開催 (再掲)

23ページ参照



④ 『絵本こうかん市場』の運営

絵本の有効活用と絵本を通じた子育て環境の整備を目的に、池田婦人会と協力しながら、長田中央市場内に開設し、運営を行いました。

⑤ こどもの居場所への支援や立ち上げ支援

こども食堂や学習支援を行う16団体に、巡回支援、情報提供、寄贈品の配布などの支援を行い、顔の見える関係づくりのための情報交換会を実施しました。

これから立ち上げようとしている活動希望者の相談を受け、情報提供や助成などの立ち上げ応援を行いました。(相談7件、うち3件は活動開始) また、こどもの居場所についての理解を深めてもらえるよう、「長田区こどもの居場所紹介マップ」を作成し、こどもの居場所実施団体や、これから立ち上げようとする活動希望者、関係機関等に配布しました。

《情報交換会の実施状況》

開催日	①7月14日 ②3月4日(対面・オンラインのハイブリット開催)
会場	長田区役所 7階 大会議室
内容	① コロナ感染症、助成金についての情報提供、コロナ禍での活動、今後についての情報共有、情報交換 ② こどもの居場所活動団体の情報交換、助成金について、活動団体対象の物資パントリー
参加団体	こどもの居場所実施団体 ①12団体 ②12団体

4. 違いや文化を認め合う地域を目指します

(1) 多文化交流と多文化共生の促進

① 地域共生コーディネーター事業の実施(区役所からの受託事業)

地域社会とのコミュニケーション不足や、文化の違いについての相互理解が不足していることで、地域と在住ベトナム人親子は、共にさまざまな課題を抱えています。通訳や翻訳によるコミュニケーション支援を行い、相互文化の理解不足を補うことを目的として、地域共生コーディネーターを配置しました。

② シンチャオ巡回の実施

児童館や学童保育コーナー、保育所でのベトナム人児童の増加に対応するため、施設を巡回(計36回)し、課題を把握し、通訳や翻訳支援を行いました。併せて、必要と思われる日本語を教え、意思疎通を図りました。

③ 外国人親子支援事業

《情報交換会の実施》

ベトナム人の児童が多い7つの児童館と本会で、ベトナム人親子の抱える課題について共有する情報交換会を実施しました。

開催日	6月29日
会場	長田区役所 5階 502会議室
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・各館で把握したベトナム人親子の抱える課題 ・それらの課題への対応の検討

《コミュニケーション支援の実施》

ベトナム人の児童が多い児童館や乳幼児健診（4ヶ月、1歳半）に参加する親子を対象に、地域共生コーディネーターが通訳や翻訳の支援を行いました。また、オンラインでの相談対応も実施しました。

通訳支援	<ul style="list-style-type: none"> ・放課後児童クラブ入会説明会 ・児童館で実施する懇談会 ・各児童館でのベトナム人親子への個別対応
翻訳支援	<ul style="list-style-type: none"> ・各児童館の広報紙 ・おたよりや連絡文書 ・放課後児童クラブ入会説明会要項 ・新型コロナウイルス感染症にかかわる資料やチラシ

《シンチャオ防災の実施》

中止

（ベトナム人の児童が多い5つの児童館と協働して、ベトナム人親子を対象にベトナム語に翻訳した防災啓発パンフレットを配布し、地域共生コーディネーターが、ゴミ袋を防災グッズとして活用する方法などを分かりやすく説明する防災企画）

《多文化共生研修会》

中止

（児童館を対象に、「ベトナム人の子育て習慣や思考、ベトナムの歴史」について理解を深める研修会）

IV. 法人の会議

1. 理事会、評議員会

	開催日程 会場	議事内容
理事会 (第1回)	5月27日 決議の省略 ※	1. 令和2年度 事業報告・決算報告 2. 評議員選任候補者の推薦、評議員選任・解任 委員会の招集 3. 定時評議員会に提出する理事・監事の選任候 補者(案) 4. 定時評議員会の招集、提出議案
定時評議員会	6月22日 長田区役所 7階	1. 令和2年度 事業報告・決算報告 2. 理事・監事の選任(案)
理事会 (第2回)	6月22日 長田区役所 7階	1. 理事長・副理事長の選定 2. 顧問の選任 3. 評議員選任解任委員の選任 4. 評議員選任候補者の推薦・評議員選任解任委 員会の招集
理事会 (第3回)	3月23日 長田区役所 7階	1. 令和3年度 補正予算(案) 2. 令和4年度 事業の受託契約(案) 3. 令和4年度 役員等賠償責任保険契約の締結 4. 令和4年度 事業計画(案)、予算(案) 5. 第2回評議員会の招集、提出議案
評議員会 (第2回)	3月23日 長田区役所 7階	1. 令和3年度 補正予算(案) 2. 令和4年度 事業計画(案)、予算(案)

※「決議の省略」＝書面による決議

2. 評議員選任・解任委員会

	開催日程 会場	議事内容
評議員選任・ 解任委員会	6月22日 長田区役所 4階	1. 評議員の選任

3. 監事監査

	開催日程 会場	議事内容
監事監査	5月14日 長田区役所 4階	1. 令和2年度 事業報告 2. 令和2年度 決算